

第6学年 道徳学習指導案

1組 計25人 (男子11人, 女子14人)

指導者T1: 田平奈保美

T2: 上野久美

- 1 主 題 名 みんなのためにつらくても責任を果たす (4-(3) 役割と責任の自覚)
 読み物資料「大水とたたかう」(学研教育みらい6年)

2 主題について

- (1) 内容項目と (2) 指導内容についての基本的な立場

その系統

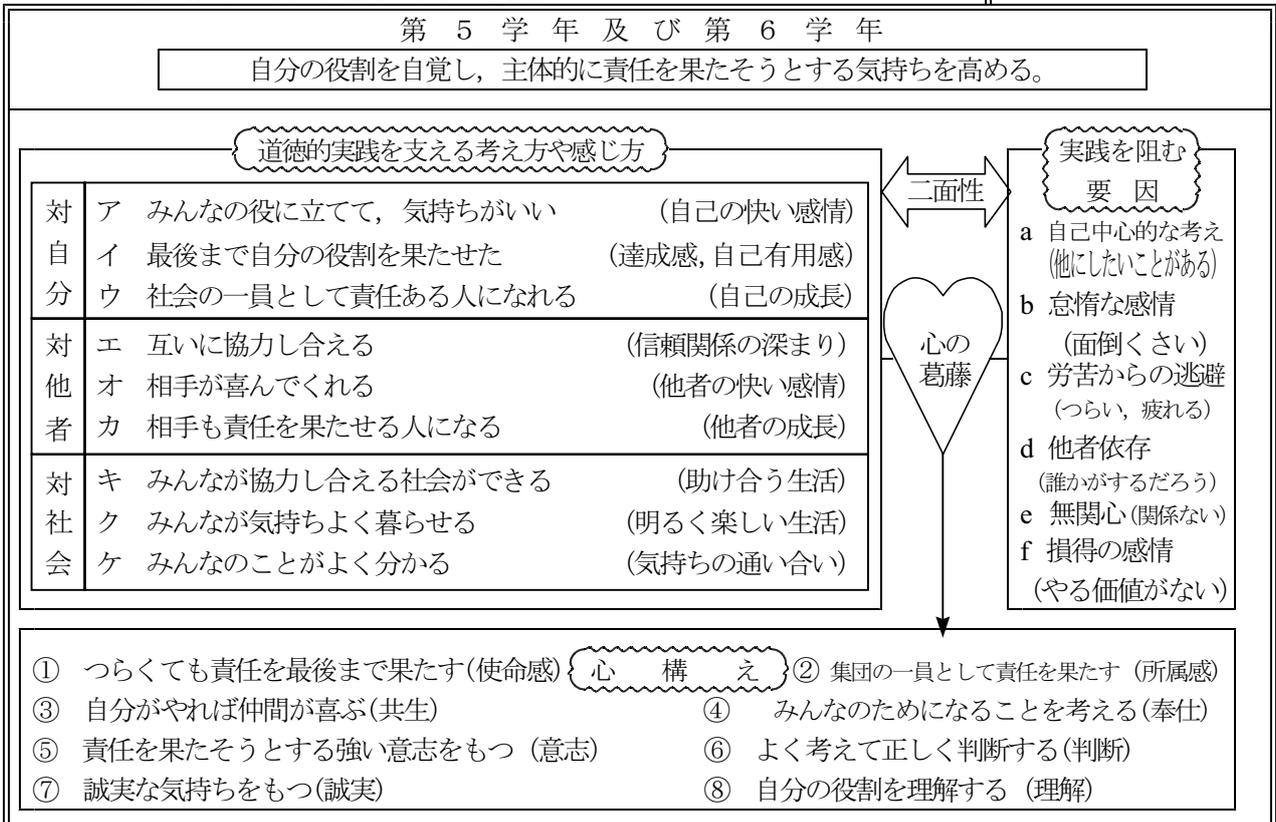
高学年4-(3) 身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たす。
中学校4-(4) 自己が属する様々な集団の意義についての理解を深め、役割と責任を自覚し集団生活の向上に努める。

自分の責任を果たすという態度は、日頃からの実践の積み重ねと自分の役割に対する自覚から形成される。また、自分の役割を自覚できるということは、自分のことや他者のことを含めて物事全体を見る姿勢をもち、その集団の中で、自分ができることを理解することである。ここでは、集団生活を送る上で、自他の役割や責任を自覚し、他者との関わりの大切さや、協力して目標を達成することのよさに気付くための大切な考え方を身に付けていくことになる。

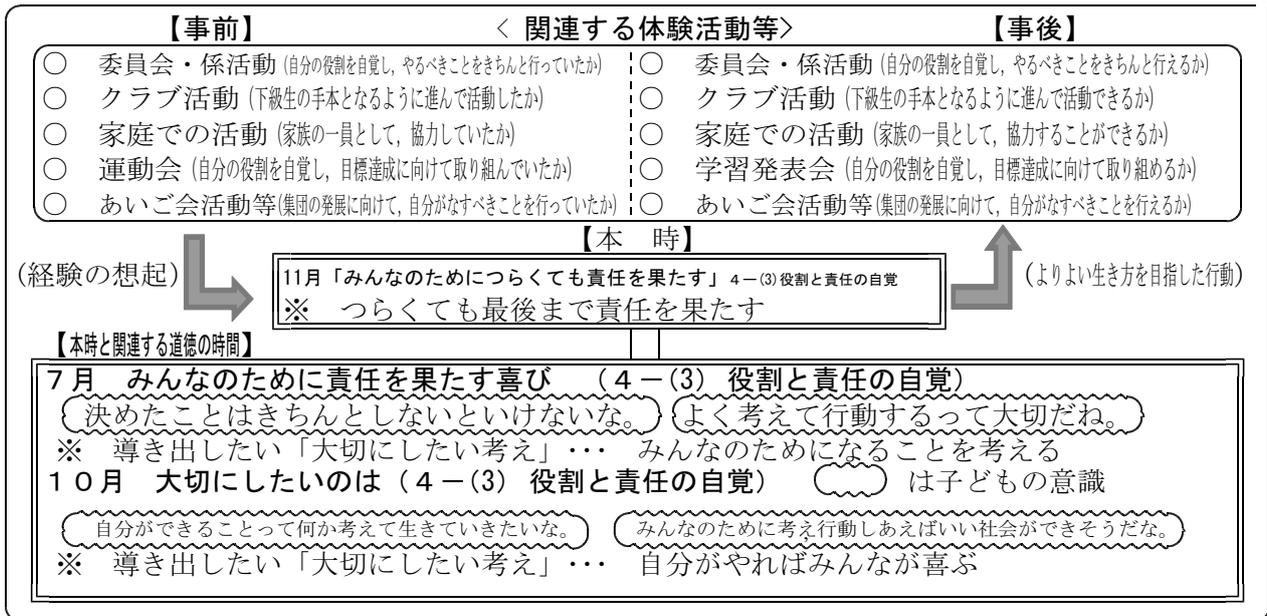
この期の子どもたちは、最高学年となり、校区内の様々な活動において中心的な役割を果たすことが期待されている。また、自分の役割や責任に対する自覚が深まり、責任をもって行動したり、友達と協力したりできるようになる。しかし、やるべきことが分かっているにもかかわらず、計画の甘さや、つらいことや苦しいことへの忍耐力の不足により、自分の責任を途中で放棄してしまい、他人や集団の役に立つ喜びや達成感、集団への使命感を十分に感じているとはいえない。

そこで、本主題では、自分のなすべきことに責任を感じ、困難を乗り越え最後までやり遂げることが、自分だけではなく、他の人々や集団のためになり、組織や地域等を含めた集団社会を支えていることに気付くことができるようにする。そして、どんなにつらくても、与えられた役割に対して最後まで責任を果たしてこそ、集団の一員としての喜びや達成感を味わえることに気付くことができるようにする。これらのことにより、集団の中で自分の立場を自覚し、役割や責任を主体的に果たそうとする態度を育てていくことをねらいとする。

(3) 本主題の指導内容及び道徳的価値の構造



(4) 本主題に関する体験活動等



3 子どもの実態

(調査人数 25人 複数回答あり H23. 9. 20)

(1) 本主題に関する経験場面①

責任をもって最後までやり遂げた経験	人数
・ 委員会や係、当番など	38
・ 自主清掃	15
・ 清掃活動(異年齢活動)	12
・ リレーの練習	7
・ 手伝い	6

(2) 本主題に関する経験時の感情

責任をもって最後までやり遂げたときの気持ち	人数
・ 自分がやってスッキリした。	18
・ 相手やみんながよろこんでうれしい	18
・ 学校がきれいになってよかった	10
・ みんなに迷惑がかからなくてよかった	10
・ 家族が喜んでくれてよかった。	4

(3) 本主題に関する経験場面②

責任をもって最後までやり遂げられなかった経験	人数
・ 委員会や係、当番など	40
・ 自主清掃	9
・ 清掃活動(異年齢活動)	7
・ リレーの練習	5
・ 手伝い	4
・ あいご会活動	2

(4) 本主題に関する経験の理由

責任をもって最後までやり遂げられなかった理由	人数
・ 誰かがするだろうと思ったから	12
・ 他にしたいことがあったから	12
・ 気がゆるんでいたから	10
・ 忘れていたから	10
・ 面倒くさいから	9
・ しなくてもいいかなと思ったから	7

(5) 道徳的価値の意義

責任をもって最後までやり遂げることはなぜ大切か	人数
・ みんなに迷惑をかけるから	17
・ 自分のためになるから	9
・ みんなが喜ぶから	4
・ 自分がやると決めたから	3
・ 人任せにしないために	3

(6) 道徳的価値に対する心構え

責任をもって最後までやり遂げるための心構え	人数
・ 最後までやり遂げるという強い意志	10
・ みんなのために自分ががんばろう	9
・ みんなの中の1人としてがんばる	6
・ 自分のためにがんばる	3
・ 自分の立場を考え自覚をもつ	3

【考 察】

(1)から、役割や責任をもって最後までやり遂げた経験を全員がもっていることが分かる。6月に同様の調査をしたときは、自分の生活の中での経験を想起しにくい子どもが見られたが、今回は特に、学校などの集団生活の中での経験を挙げていた。(2)から、「自分がしなければならぬか」「相手やみんなのためになるから」という自分自身だけではなく、周りの人や集団の幸せを考えたものも多いことが分かった。また、(3)から、役割や責任をもって最後までやり遂げることができなかった経験も全員がもっている。(4)の理由としては、6月の調査では、「面倒だったから」「やりたくないことだったから」などという怠惰な感情や労苦からの逃避によるものがほとんどであったが、今回の調査では、「誰かがするだろう」「他にしたいことがあった」などと、責任を果たそうとする気持ちが十分でなかったり、役割に対する思いが薄かったりする考えが多く見られた。(5)の責任をもって最後までやり遂げることの意義については、「みんなに迷惑をかけるから」といった社会や集団の向上にかかわる理由が圧倒的に多く、次いで、「自分のためになるから」という自分自身の成長にかかわることを挙げていた子どもが多かった。また、(6)の責任をもって最後までやり遂げるための心構えについても、6月の調査では、頑張るぞという強い気持ちをもつことと自分の役割を果たすことができると考えている子どもが多かったのに対して、今回は、自分の役割を果たすことは、集団のためだけではなく、自分の喜びでもあることに気付いている子どもが増えてきていることが分かる。

この調査を踏まえ、本時では、つらくても最後まで責任をもってやり遂げようとする際に、自分自身だけではなく、周りの人の幸福につながることを、そして自分が所属する集団や社会の幸福につながるという考えをもてるようにし、役割と責任を自覚できるようにしていきたい。

4 資料について

(1) 資料のあらすじ

薩摩藩に木曾川治水工事の命令が下された。薩摩藩では、この命令を受けるか否か、様々な意見が飛び交い、なかなか話がまとまらない。そんな中、平田鞞負の発言で、幕府の命令通り、工事に取りかかることになる。工事は第1期、第2期と2年間にわたり続く。一生懸命働いても、大水のために堤防は簡単に流されてしまう。その間、薩摩藩士たちの生活はどんどん苦しくなり、不満を募らせる武士も増えてきた。しかし、薩摩藩士たちは、平田鞞負の言葉に励まされ、工事の失敗の原因をつきとめ、新しい工夫をこらして、苦しい木曾川の治水工事を終えることができた。

(2) 資料の分析・子どもの反応予想

場 面	価値の分析(価値構造図 p147より)	予想される子どもの反応
1 難工事なのに、引き受けようと言った鞞負 【希望】 【迷い】	ウ 自己の成長 (対自) ク 集団・社会の成長 (対社) b 怠惰な感情 (面倒くさい) c 労苦からの逃避 (つらい、疲れる) ② 所属感 ③ 共生 ④ 奉仕 ⑤ 意志	<ul style="list-style-type: none"> 薩摩を戦場にしてはならない。 水害に苦しんでいる人を助けたい。 責任をもってやろう。 薩摩藩の務めだ。 不安だがやるしかない。 幕府の命令には従わなければ。
2 薩摩藩士たちの不平を聞く鞞負 【弱さ】 【迷い】	a 自己中心的な考え (他にしたいことがある) b 怠惰な感情 (面倒くさい) d 他者依存 (誰かがするだろう) e 無関心 (関係ない) ① 使命感 ② 所属感 ③ 共生 ④ 奉仕 ⑧ 理解	<ul style="list-style-type: none"> みんなつらいことはよくわかる。 もう、この工事はだめなのではないだろうか。 工事を早く終わらせて薩摩に帰りたい。 ここでやめていいのだろうか。
3 薩摩藩士たちに力強く自分の考えを訴える鞞負 【希望】 【喜び】	イ 自己の成長 (対自) オ 他者の成長 (対他) ク 集団・社会の成長 (対社) ケ 気持ちの通じ合い (対社) ① 使命感 ② 所属感 ③ 共生 ④ 共生 ⑤ 意志 ⑥ 判断	<ul style="list-style-type: none"> 一度引き受けた仕事は途中でやめない。 この仕事をやり遂げればみんなが喜んでくれる。 幕府に逆らうことはできない。 大水で苦しむ人々を救いたい。
4 治水工事をやり遂げた鞞負 【希望】 【喜び】	イ 自己の成長 (対自) オ 他者の成長 (対他) ク 集団・社会の成長 (対社) ケ 気持ちの通じ合い (対社) ① 使命感 ② 所属感 ③ 共生 ④ 共生 ⑤ 意志 ⑥ 判断 ⑦ 誠実 ⑧ 理解	<ul style="list-style-type: none"> やりとげることができてよかった。 村人を救うことができてよかった。 薩摩が戦場にならなくてよかった。 幕府の命令をやり遂げたぞ。 薩摩の人々と協力してやり遂げた。

この資料は、幕府の政策の一つであった薩摩藩士による木曾川の治水工事を様々な困難に立ち向かいながら、薩摩の武士たちをまとめ最後まで責任をもってやりとげた平田鞞負を主人公とする話である。校区内に平田鞞負の銅像がある平田公園があり、子どもたちは折に触れて平田鞞負の偉業を聞いたり、その公園で実施される薩摩義士聖徳慰霊祭に参加したりしており、平田鞞負をより身近な存在として感じ、鞞負の気持ちになって考えることができやすい内容であるといえる。

今回、どんなにつらくとも最後まで責任を果たすことの大切さや、自分が所属する集団での役割を自覚し、目標を理解して責任を果たすということが、自分の喜びだけでなく、他人や所属する集団の喜びにつながることに気付くようにこの資料を活用する。

5 本 時

(1) 目 標

自分の役割を自覚し、主体的に責任を果たそうとする気持ちを高める。

(2) 指導に当たって(研究との関連)

- 「見つめる」過程では、責任を果たすための意義に迫る場面で、ワークシートを活用して書く活動を取り入れる。そのことで、子どもたちが、観点をもって自分の考えを明確にしたり、その観点を踏まえてグループ内で友達との考えとの交流をしたりできるようにする。
- 「深める」過程では、研究内容に最も照らした活動として、自分に生かしたい「大切にしたい考え」を自ら見付け出す活動を取り入れる。本時の学習を通して、自ら考えてきたことを基に、どのように「大切にしたい考え」を見付け出すことができたかが重要となる。その際、自分がその考えを見付け出した理由について述べるができるようにすることを見据え、多様な考えを引き出すために電子模造紙を使用し、効果的な指導に努めていく。

また、「見つめる」過程とのつながりをもたせながら、「大切にしたい考え」と関連する日常生活を想起し、「自分づくりカード」にまとめる活動を取り入れる。そのことで、関連する日常生活の場面において、「大切にしたい考え」をもって実践できそうだという展望を抱かせ、それを自分なりに表現できるようにすることで、日常生活への実践意欲の向上を図る。

過程	主な学習活動と予想される子どもの反応	教師の指導
(分)	1 平田靱負について話し合い、責任を果たすことについての意識を高める。	☆ 本時の主題に関連する問題意識を高めることができよう。平田靱負の偉業についてふれ、自分と照らし合わせながら考えられることができるようになる。
気	平田靱負が行った治水工事について、どう思いますか。	○ できた経験の理由の中で、一番多かった理由(相手やみんなのためになるから。)という実態調査の結果を提示し、意識と行動の矛盾から問題意識につながるようにつなげる。
付	もし、ぼくがこの工事をするとしたら、たえられない。	○ T2と連携を図りながら、少しでも多く子どもたちの考えを引き出し、取り上げることができるようになる。
(5)	もっと責任を果たせるようになるための、「大切にしたい考え」は何だろうか。	☆ 資料を電子黒板で提示して視聴した後、感想を出し合うことで、話し合う場面の焦点化を図る。
見	資料「大水とたたかう」を視聴し、主人公の平田靱負の気持ちを中心に話し合う。	○ 時代背景やエピソードを説明することとで、死を覚悟して、薩摩藩のために難工事を引き受けた靱負の心情に共感できるようにする。
つ	(1) 難工事なのに引き受けようと言った靱負の気持ちについて話し合う。	○ ワークシートに表れた考えを、3つの観点[対自分、対他者、対集団・社会]で教師が分類することで、子どもたちが友達の考えと交流しやすくなり、大切な考えを見付け出しやすくなり、(分類・整理する)
め	(2) 武士たちの不平を聞いた時の靱負の気持ちを話し合う。	☆ 子どもたちが参加している集団(委員会活動、係活動、清掃、あいご会当番活動等)の写真を提示することとで、自分たちにとつての「大切にしたい考え」を見付け出すことができるようになる。
る	(3) 武士たちに向かって力強く訴えたい。 (意義)	☆ 電子模造紙上で「大切にしたい考え」を自分なりに類型化しながら考えたり、友達のを見ながら自分の「大切にしたい考え」を整理する。
(20)	対自分 対他者 対社会	◆ 自ら今後に生かしたい「大切にしたい考え」を見付け出すことができたか。【電子模造紙、発言】
深	3 これからの自分を見つめ、責任を果たすことに関する「大切にしたい考え」と生活を結び付ける。	○ 「自分づくりにカード」を用いて、本主題に関する「大切にしたい考え」を、日常生活と結び付けて考え、自ら表現することにより、これからの生活への実践意欲が高められるようにする。(自覚化する)
め	(1) 責任を果たすためにはどんな考えがあるか話し合う。(心構え)	○ 「自ら今後の生き方を書いてまとめたり、発表したりして表現することができたか。【発表・自分づくりカード】・発言・うなずき」
る	(2) 「自分づくりにカード」で、これからの生き方を考える。	
(15)	これからのあなたは、どんな「大切にしたい考え」をもって、どんな活動をしていきますか。	
高	4 岐阜県の方からのビデオレターを視聴し、最後まで責任を果たそうという実践意欲を高める。	
め	(5)	